

女流義太夫普及公演

# ぎだゆう座

## 十二月公演

二〇二三年 十二月一日(金)・二日(土)

# 仮名手本忠臣蔵

一日

解説 竹本寿々女

## 身売りの段

浄瑠璃 竹本綾一

三味線 鶴澤津賀榮

## 一力茶屋の段

由良助 竹本越孝

お軽 竹本京之助

平右衛門 竹本越京

九太夫 竹本越里

三味線 鶴澤駒治

細 鶴澤津賀花

細 鶴澤弥々

二日

解説 竹本佳之助

## 身売りの段

浄瑠璃 竹本寿々女

三味線 鶴澤三寿々

## 一力茶屋の段

由良助 竹本越孝

お軽 竹本京之助

平右衛門 竹本越京

九太夫 竹本越里

三味線 鶴澤駒治

細 鶴澤津賀花

細 鶴澤弥々



★裏面もご覧下さい

◎ところ お江戸上野広小路亭 TEL03-3833-1789

JR 山手線御徒町駅下車徒歩3分 東京メトロ地下鉄銀座線・都営大江戸線上野広小路駅 A4 出口すぐ

◎開演 午後6時半(開場6時)

◎入場料 前売り1500円 子ども500円 当日2000円

◎お申し込み (Email) jyogi.gidayuza@gmail.com

◎お問い合わせ (一社)義太夫協会 TEL03-6264-3047 <https://www.gidayu.or.jp>

◎主催 ぎだゆう座 ◎共催 永谷商事



# 仮名手本忠臣蔵

## 六段目 身売りの段

塩冶浪人・勘平の仇討ち資金のため、妻のお軽は遊女となる決心をします。母とお軽が別れを惜しんでいます。身売り先の一文字屋がお軽を迎えに来ますが、父与市兵衛が家に戻るまで待つて欲しいと頼みます。そこへ勘平が帰ってきて、与市兵衛にはもう逢ったというので、お軽は祇園町へと駕籠で連れて行かれます。

## 七段目 一力茶屋の段

祇園一力茶屋では大星由良助が仇討ちの本心を隠し放蕩三昧をつづけています。そこへ由良助の息子力弥が顔世御前からの書状を持参します。由良助が読む書状を、床下では裏切り者の家老斧九太夫、二階からは延べ鏡でお軽が盗み読みをします。そうと知った由良助はお軽を身請けすると申し出ます。お軽が兄の寺岡平右衛門に再会して密書の一件を教えると、平右衛門は、由良助は秘密を守るためお軽を身請けして殺すつもりだと察し、自分がお軽を切ろうとします。一切を見届けた由良助は忠義な部下平右衛門に敵討ちへの参加を許すのでした。

## 《お客様へのお願い》

- \* 会場備え付けのスリッパは使用できません。必要な方はご持参下さい。
- \* マスクの着用を推奨しております。
- \* 37.5℃以上の発熱のある方、それ以外でも咳・痰の症状があるなど体調の悪い方は来場をお控え下さい。
- \* 演奏中の許可のない撮影・録音はお断り申し上げます。